

## 言霊はどこに

島田正路氏著書より 「コトタマ学」 会報集成書下より抜粋

### 言霊は何処にあるか その 185

人間の心は 5 段階の界層をなす宇宙に住んでいる。

- 1, 初めは五官（目耳鼻舌身）の感覚の宇宙。
- 2, 次に五官感覚によって得た経験相互の関係を法則化していく経験知の宇宙。
- 3, 次に五官感覚による認識や経験知とも違う人間の感情の宇宙。
- 4, 第四番目は物事に対処するにあたって五官感覚認識や経験知や感情というものをいかに取り込んで生きていけば良いかを決定する実践智の宇宙。
- 5, そして最後に人間性能の最も奥にあつて他の四つの次元の宇宙を下支えしている生命創造意志の宇宙である。

コトタマ学は以上の五界層の宇宙にそれぞれ五つの母音を当てウオアエイの宇宙と呼んでいる。

最後にあげた創造意志の次元について一言検討しておこう。人間の想像意志コトタマは五官感覚言霊によっては決して捉えることはできない。だから五官感覚による欲望の仕事、例えば商売にのみ関心を持つ商人には関係のない話である。

また言霊オの経験知・学問によってもこれを理解することができない。

言霊という存在が経験知の認識を超えたところにあるためである。

3 番目の言霊アである人間の感情に根ざした宗教・芸術の世界はどうであろうか。宗教的に種智とか、摩尼とか、生命の城とか呼ばれているものが純粹に存在する精神の最奥の世界が各宗教で高天原天国極楽として説かれてきた高天原は天の彼方に極楽は西方十万億土の向こうに、憧れと信仰の対象として説かれてきた。そのため宗教においても言霊そのものを自らのもの、人間の側のものとして捉えることは不可能なことであり、そのことに言及することが神仏への冒瀆とみなされがちであった。

同じく言霊に属する芸術活動においても言霊の幸倍ふ国と言われるその言霊自体を想像の対象とする作品は見ることができない。言霊はそれほどに縁遠い遠い存在であり単に憧れの対象としてだけ求められるものなのであるのか。決してそうではない言霊とは信仰の対象でもなく、学問の永遠の未来にある目標なのでもない。

現実に私たち人間の内奥にあつて毎日毎日の生活を、そして人類文明の創造を一瞬も休むことなく導いてくれている清浄無垢な生命の力動なのである。言霊は「大道廃れて仁義あり」と言われる第四次元の道德の宇宙にも存在せず、ただ最後の第五のイ言霊の宇宙に、珠玉の如き円満な姿で存在し、活動しており他の四次元のいかなる思惟も想像からも隔絶しているのである。

・・・その 186 に続く

## 言霊は何処にあるか

島田正路氏著書より 「コトタマ学」会報集成書下より抜粋  
その 187

言霊はどこに存在するのが第五次元の人間の想像意志の世界にのみ純粹に存在している。それは他の四次元までのウオアエ即ち五官による感覚・経験知・感情・道徳観では捉えることは不可能である。けれど逆に生命最高にして最奥の力動である言霊イの世界の言霊が、第二次的に人間の意識として自らを顕わしていく働きがウオアエの四智である、ということが出来る。

人間の 第五 の最高智でありすべての活動の根元にある言霊は過去 2000 年間人間の自覚した姿で活動することがなかった。その言霊の学が 2000 年前にあったと同じ姿でこの人間社会に復活を遂げた今では言霊は現実の社会に、現実にした人間自覚のもとに、人間の 第五 の生命創造意志の次元に存在している。

であるから先に指摘した五官感覚認識の宇宙は言霊ウ、経験知の宇宙は言霊オ、感情の宇宙は言霊ア、実践知の宇宙は言霊エという名前も、言霊イの生命創造意志の次元に立って初めて命名されるものなのである。言霊イの次元以外に言霊五十音は存在していないことからくる当然の結論ということができる。

さて以上お話ししたことで言霊学という学問上で言霊が何処に存在しているかはわかった。言霊は第 5 次元の言霊イの界層に存在する。

そうしたら人間はどう対処し勉強したら良いのか。今までの話がただこれだけで終わってしまえば、言霊はどこに存在するかという知識で終わってしまう。知識から実践へ進むにはどうしたらよいか。

言霊というものがある、ということから出発して言霊の原理を自ら心全体で捉え、その原理によって自らを見つめ、社会を見、人類文明の創造に寄与するためにどうしたらよいか。知識から実践への道はいかに。言霊について知識を身につけることと、生きた言霊、自分自身を一瞬の休みなく導いてくれている言霊に現実接することとは全く違うことである。

いとも平々凡々たる人間が一瞬の休みも無く言霊に触れ、言霊によって生きている所と時は何時・何処か。言霊学を知っている人も、全く知らない人も、生きている間、常に言霊によって生きている時と場所はどこか。言霊が常に生きて活動しているところ、それは私たちが生命を燃焼し、現実自らの生活や社会や人類文明を創造しつつあるところであり、古神道ではこれを「中今」と呼ぶ。

中今とは常なる此所・今のことである。言霊五十音は常にこの中今の中で活動し、生命を

創造している。アイウエオ五十音言霊とはこの今・此所即ち中今の内容である。生きた言霊に接している自覚を持ちたいならば、言霊が活動している地点、中今に帰ればいい。方法はただ一つ、これだけである。

人は常にこの中今において生きている。常にそこに生きていながら、それを自覚する人は少ない。中今を自覚する次元を言霊アという。その中今の内容である言霊が活動して、生活を、文明を創造してゆく次元を言霊エと言う。

五十音の原理は「今此所に於いて物事に対処して何かをしようとする瞬間」すなわち実践智の働く瞬間において操作することができるものなのである。

・ ・ その 188 に続く